PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number:

11-000977

(43) Date of publication of application: 06.01.1999

(51)Int.CI.

B32B 27/36 B29C 55/12 B32B 27/20 CO8K B29K B29K 67:00 B29L 9:00

(21)Application number : 09-169676

(71)Applicant: TORAY IND INC

(22)Date of filing:

12.06.1997

(72)Inventor: KUROME TAIICHI

SUMIYA TAKASHI

TAKAGI YORIYUKI

(54) WHITE POLYESTER FILM

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a white polyester film having also whiteness, shielding properties, glossiness, antistatic property and processing suitability as a printing base material. SOLUTION: This film comprises an easy adhesive resin layer containing 4 to 8 wt.% of titanium dioxide having a mean particle size of 0.1 to 0.6 μ m and laminated in a thickness of 0.1 to 1 μ m on at least one side surface of the film. In this case, surface specific resistance value of the layer is 1 × 108 to 1 × 1012 Ω , surface roughness (10-point mean roughness, sRz) of 2 μ m or more, optical density of 0.5 or more, and whiteness of 50% or more.

LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C): 1998,2003 Japan Patent Office

(11)特許出願公開番号

特開平11-977

(43)公開日 平成11年(1999)1月6日

·····			***************************************					,
(51) Int. Cl. "	識別記号		FΙ					-
B32B 27/36			B32B	27/36	;			
B29C 55/12				55/12				
B32B 27/20			B32B	27/20)		A	,
CO8J 7/04	CFD		C081	7/04		CFD	ī	
		,				CFD	G	
		審查請求	朱龍朱	說求	項の数 2		(全6頁)	最終質に続く
21)出願番号	特颐平9-169676	•	(71)出	願人	0000031	59		
					東レ株式			
(22) 出願日	平成9年(1997)6月12日						本機家町 2 7	「目2番1号
			(72)発	明者	黒目 孝			
					岐阜果多	7八郡神戸	三町大字安次	欠900番地の 1
							阜工場内	
			(72)発	明者	角谷 階			
			}		岐阜県安	八郡神戸	可大字安》	で900番地の 1
							阜工場内	
			(72)発	明者	高水 服	泛		
			岐阜県安八			八郡神戸	可大字安次	で900番地の 1
					東レ株式	式会社岐	阜工場内	_
			(74)代	理人	弁理士	伴俊为	£	
		i						

^{(54) 【}発明の名称】白色ポリエステルフィルム

(57) 【要約】

【課題】 印刷基材としての白色性、遮光性、光沢性、 帯電防止性と加工適性を共に具備した白色ポリエステル フィルムを提供する。

【解決手段】 平均粒径 $0.1\sim0.6\mu$ mの二酸化チタンを $4\sim8$ 重量%含有し、少なくとも片面に易接着樹脂層が $0.1\sim1\mu$ mの厚さで積層され、易接着樹脂層面の表面比抵抗値が $1\times10^1\sim1\times10^{12}$ Ω 、表面粗さ(10点平均粗さ、 1×10^1 $1\times10^$

【特許請求の範閱】"

【請求項1】 平均粒径0.1~0.6μmの二酸化チ タンを4~8低量%含有し、少なくとも片面に易接着樹 脂層が0. 1~1μmの厚さで積層され、易接着樹脂層 面の表面比抵抗値が1×10°~1×10"Ω、表面粗 さ(10点平均粗さ、sRz)が2μm以上、光学温度 が0.5以上、白色度が50%以上であることを特徴と する白色ポリエステルフィルム。

【請求項2】 前記二酸化チタンの他に、平均粒径が2 ~10 μmの無機粒子を0.05~0.5重量%含有し 10 ている、請求項1の白色ポリエステルフィルム。

【発明の詳細な説明】

[0001]

【発明の属する技術分野】本発明は白色ポリエステルフ ィルムに関し、更に詳しくは印刷インク、磁気記録層と の密着性や帯電防止性が良好で、耐擦過性に優れた白色 ポリエステルフィルムに関するものである。

[0002]

[従来の技術] 白色ポリエステルフィルムは、その良好 な隠蔽性、白色性、機械強度、寸法安定性などの特性か 20 ら、磁気カード、ラベル、熱転写記録あるいはインクジ エット記録方式の受像紙、製図用ブロッター用紙、単に はフィルムの積層により構成されるI Cカードなどに使 用されている。特に最近、公衆電話用、鉄道運賃用、高 速道路料金用、バチンコカード用その他種々の目的で磁 **気カード用途に大量に使用されている。これらの用途で** は通常、白色ポリエステルフィルムに文字、図柄などの 印刷や磁気記録層の積層などの加工が行われるため、易 接着あるいは帝電防止を目的とした樹脂層が表面に積層 された白色ポリエステルフィルムを使用することが多 W

[0003]

[発明が解決しようとする課題] 従来の白色ポリエステ ルフィルムにおいては、二酸化チタン、硫酸バリウム、 炭酸カルシウムなどの白色無機粒子を樹脂中に10重量 %以上含有する原料が使用されてきた。しかし、白色無 機粒子の含有量が多い樹脂によっては、フィルム製膜時 の延伸応力が高く破れ易いなどの製造上の問題があり、 白色無機粒子のコストが大きく付加されるためコスト面 で不利である。加工においても、例えば磁気カードの打/40 ち抜き工程において企型の磨耗が早いなどの短所があっ た。従って、実用的な隠蔽性、白色度が得られれば白色 無機粒子の含有量は少ない方が好ましい。

[0004] 一方、印刷の高度化、インクの多様化から **易技着樹脂層へはより高い密着性が要求され、更に取扱** い性の容易さから帯電防止性の向上も求められてきた。 これらの要求に対して易接着樹脂の組成検討も重要であ るが、その積層厚さを増すことも実際的な効果という点 で有効である。

易接着樹脂の租居厚増加は白色ポリエステルフィルムの 機能向上において好ましいが、そのようにすると、他方 でフィルム加工時に表面が削れ易くなり、削れ粉による 汚染、コーティング加工での塗布すじ発生などの問題が 生じることになった。フィルム表面の削れ防止として は、他の無機粒子を添加して易滑化する方法が知られて いるが、既に白色無機粒子を相当量含有する原料中に更 に大粒径の無機粒子を添加した場合、凝集して表面に粗

【0006】本発明はかかる従来技術の課題を解決し、 印刷基材としての隠蔽性、白色性とインク等への密着 性、帯電防止性を具備し、フィルム加工時に表面削れ等 が生じない白色ポリエステルフィルムを提供することを 目的とする。

大突起を形成し易くなるという問題がある。

[0007]

【課題を解決するための手段】この目的を選成するため に、本発明の白色ポリエステルフィルムは、平均粒径 0. 1~0. 6 μmの二酸化チタンを 4~8 重量%含有 し、少なくとも片面に易接着樹脂層が 0. 1~1μmの 厚さで積層され、易接着樹脂層面の表面比抵抗値が1× 10°~1×10''Ω、表面粗さ(10点平均粗さ、s R z) が 2 μ m 以上、光学 濃度が 0 、 5 以上、 日色度が 50%以上であることを特徴とするものからなる。

[0008]

【発明の実施の形態】以下、本発明を、望ましい実施の 形態とともに詳細に説明する。本発明の白色ポリエステ ルフィルムを構成するポリエステルは、主な酸成分、グ リコール成分おのおのを芳香族ジカルボン酸、脂肪族グ リコールとする実質的に緑状のポリエステルである。芳 香族ジカルボン酸成分としては、例えばテレフタル酸、 ナフタレンジカルボン酸、イソフタル酸、ジフェニルジ カルボン酸、ジフェニルエーテルジカルボン酸、ジフェ ニルスルホンジカルボン酸、ジフェニルケトンジカルボ ン酸などを用いることができる。脂肪族グリコールとし ては、例えばエチレングリコール、トリメチレングリコ ール、テトラメチレングリコール、ヘキサメチレングリ コールなどの炭素数2~10のポリメチレングリコー ル、シクロヘキサンジメタノールなどの脂環族グリコー ルなどを用いることができる。これらのポリエステルの うち、特にポリエチレンテレフタレート、ポリエチレン -2, 6-ナフタレート、あるいは全ジカルボン酸成 分、全グリコール成分おのおの80モル%以上がテレフ タル酸および/または2, 6-ナフタレンジカルボン 酸、エチレングリコールである共重合ポリエステルが好 ましい。また、酸成分、グリコール成分おのおの20モ ル%未満で共軍合できる成分は上記以外に、酸成分とし ては例えばアジピン酸、セバシン酸などの脂肪族ジカル ボン酸、シクロヘキサン-1,4-ジカルボン酸などの 脂環族ジカルボン酸などがあり、グリコール成分として 【0005】このように、白色無機粒子添加量の減少と 50 はポリエチレングリコール、ポリプロピレングリコー

ル、ポリテトラメチレングリコールなどのポリテルキレ ングリコール、ハイドロキノンなどの芳香族ジオールな どがある。上記ポリエステルは各種の方法で製造でき、 固有粘度(25℃、o-クロロフェノール中の溶液とし て測定)は0.5~1のものが好ましい。

[0009] 本発明の白色ポリエステルフィルムには、 所定の白色度、光学濃度、光沢度を得るために白色無機 粒子として二酸化チタンを添加する。使用する白色無機 粒子は平均粒径 $0.1\sim0.6\mu\mathrm{m}$ のもので、ポリエス テル中の含有畳は4~8重量%であり、好ましくは5~ 10 7 重量%である。4 重量%未満では十分な白色度、隠蔽 性が得られず、8 重量%を越えると白色度、隠蔽性が飽 和する一方で製膜、加工上の問題が増加するため好まし くない。つまり、本発明の課題の一つである白色無機粒 子の含有量を所定値以下に抑える。

【0010】白色無機粒子としての二酸化チタンとして は、アナターゼ型、ルチル型があるが、アナターゼ型ニ 酸化チタンの方が白色度の点などから好ましい。また粒 子表面をアルミナ処理、シリコーン処理などを施し樹脂 中での分散性を高めたものも好適に使用される。

【0011】本発明で規定した白色ポリエステルフィル ムの表面組さ(10点平均粗さ、sRz)を実現するた めには、二酸化チタン粒子の他に大粒径の無機粒子を添 加することが好ましい。無機粒子の平均粒径としては2 $\sim 10 \, \mu \mathrm{m}$ が好ましく、より好ましくは3 $\sim 8 \, \mu \mathrm{m}$ の平 均粒径で、添加量は0.05~0.5重量%が好まし い。このように、二酸化チタンの他に大粒径の無機粒子 を微量添加することにより、本発明のように易接着樹脂 層を比較的厚く積層した場合でも、ブィルム加工中の表 面削れなど表面欠点の発生による印刷品位の劣化、コー 30 ティング欠点の発生を抑制することが可能となった。無 機粒子としては炭酸カルシウム、コロイダルシリカ、凝 集シリカ、アルミナ、有機粒子などの単分散あるいは凝 **集粒子を用いることができる。**

【0012】本発明の白色ポリエステルフィルムには更 に蛍光増白剤を0.005~0.05重量%添加しても よい。白色無機粒子を比較的少量派加することによる白 色度の低下を捕い、良好な印刷品位を得るために蛍光増 白剤の添加は効果的で、特に蛍光の中心液長400~5 00 nmの蛍光増白剤が好ましい。

【0013】本発明の白色ポリエステルフィルムの厚さ は50~400 μmの範囲が好ましく、より好ましくは 50~250μmの範囲である。50μm未満では十分 な白色度、隠蔽度が得られず、またフィルムの製膜上も 破れが多いなど生産性において劣るため好ましくない。 400μmを越える場合にも生産性、取り扱い性に支障 が生じるために好ましくない。

【0014】本発明の白色ポリエステルフィルムは、表 面粗さ(10点平均粗さ、sRz)が2以上はmであ

易接治樹脂層の表面削れを防止する効果がおとり、4 μ mを越えると印刷面が荒れて品位が低下し、また盗布さ れた磁気記録層においてドロップアウトや出力低下の原 因となるため好ましくない。 通常、フィルム表面粗さは 中心線平均粗さ(s R a)で表されることが多いが、フ ィルム表面の削れに対して有効なのは表面突起のうち大 きな突起、即ち s R z で表現される突起の密度であるこ とを見いだし、このように規定した。

【0015】本発明の白色ポリエステルフィルムの光学 **逸**度は0.5以上であり、好ましくは0.8以上であ る。光学濃度 0. 5 未満では白色ポリエステルフィルム 表面に印刷する上で、例えば反対面に磁気記録層を設け る磁気カードなどにおいて磁気記録層の色が透けること によって白さが低下するため好ましくない。印刷という 面からは光学濃度が大きく隠蔽性が高い方が好ましい が、そうすると白色無機粒子の添加量を増加せざるを得 なくなり、フィルム表面の光沢度が低下し、製膜する際 に破れ易くなったり、打ち抜き工程で支障が生じるた め、光学濃度としては突用上十分な1.5以下であるこ 20 とが好ましい。

【0016】本発明の日色ポリエスデルフィルムの白色 度は50%以上であり、好ましくは80%以上である。 表面には文字、図柄等の印刷を行なうことができ、白色 度が低いと美塵な印刷が困難になるため好ましくない。 また、白色度を更に高めるには、白色無機粒子の添加畳 を増やし特定の粒子を選定する必要が生じて製販性およ び経済性で不利になるため、白色度としては99%以下 であることが好ましい。

【0017】本発明の白色ポリエステルフィルムでは、 少なくとも片面に易接着樹脂層が 0. 1~1μmの厚さ で、好ましくは 0.3 \sim 1 μ mの厚さで積層される。 1 μm未満ではインク等の密着性、帯電防止性を十 分に発揮しにくく、1μm以上では易接着層の凝集破壊 によって密着性がかえって低下することなどが生じるた め好ましくない。

【0018】 易接着樹脂としては、水溶性あるいは水分 散性のポリエステル系樹脂、ポリウレタン系樹脂、ポリ アクリル系樹脂などを用いることができる。

【0019】本発明の白色ポリエステルフィルムの易接 40 増樹脂層面の表面比抵抗は1×10°~1×10°Ωの 範囲にあり、好ましくは1×10'°~1×10''Ωの範 囲にある。帯電防止性という点からは表面抵抗値は小さ い方が好ましいが、必要以上に抵抗値を下げることは易 接着層中の帯電防止成分を増やすことになって易接着層 の強度を下げる結果を招いたり、易接着層の厚さが増す ことから表面欠点が生じやすくなるため好ましくない。 本発明では特定の表面組さと特定の表面抵抗値を組み合 わせることによって、フィルム表面帯電によるロール等 との接触時における傷、削れの発生を抑制すると共に、 り、好ましくは $2\sim4~\mu$ m である。 $2~\mu$ m 未満では厚い 50 易換着樹脂層の十分な耐久性を確保することが可能にな

った。このような表面抵抗値が実現された場合、フィル ム加工中の取り扱い性が良好になるだけでなく、易接着 樹脂層の上に印刷や表面コートを施した後の加工品とし ても帯電防止性能が向上し、例えば磁気カードに加工し た場合にはカード同士が静電気で貼り付くようなトラブ ルを防止することが可能となる。表面比抵抗を低下させ るには、上記の易接着樹脂に帯電防止樹脂を添加する方 法が容易である。帯電防止樹脂としては、スルホン化ポ リスチレンなどが好適に用いられる。

【0020】本発明の白色ポリエステルフィルムは、上 10 記ポリエステルより下記の方法によって製造することが できる。すなわち、押出機により溶融されたポリエステ ルはシート状に口金から押し出され、冷却ドラム上で冷 却固化され、次いで逐次延伸または同時二軸延伸を経 て、絮固定のあと二軸配向フィルムとして巻き取られ る。これらの製造工程のなかで、フィルムの物性は、縫 **梭方向の延伸倍率および延仲温度、熱固定温度、さらに** は縦伐方向へのリラックス拠作などの条件を適宜選択す ることから調整される。

【0021】本発明の白色ポリエステルフィルムの表面 20 には易接着樹脂塗布層が積層される。積層方法として は、水性監剤を調製しフィルム製膜工程内で監布する方 法、共押出する方法、有機溶剤系の塗剤を副製して製膜 工程とは別途オフラインで螸工する方法などがあるが水 性塗剤による方法が好ましい。水性塗剤の塗布は、ポリ エステルフィルムの配向、結晶化が完了する以前に行な ことが必要で、例えば逐次二軸延伸製膜工程では縦延伸 後のフィルムに塗布し、横延伸、熱固定を経る間に易接 **溶樹脂層とフィルム本体との密着向上を得る方法が一般** 的である。塗布方式としては、グラビアコート法、リバ 30 ースコート法、スプレーコート法、メイヤバーコート法 などが用いられ、弦布前のフィルム変面にコロナ処理等 を施し、爛れ性を向上させてから塗工を行うのが逸布欠 点の防止と密答性の点で効果がある。

【0022】 [物性の測定方法ならびに効果の評価方 法] 本発明における特性値の測定方法ならびに効果の評 価方法は次の通りである。

(1)光学濃度

マクベス光学濃度計(TD-504)により測定した。 【0023】(2)白色度

租分球式カラーメーターにより測定する。 光源は「標準 光C」(JIS-Z-8720)を用いる。ハンター法 により白色度W (%) を、W=100-[(100-L) '+a'+b']''により計算する。

【0024】(3)光沢度

光源としてJIS-2-8720に規定された「標準光 C」を用い、60度焼面光沢法により測定を行う。 鲩面 光沢度の基準面は、屈折率1.567nのガラス表面を 光沢度100%とし、次式により光沢度(G s!)を算出 する。

光沢度 Gs (60度) = (A/B)×基準面の光沢度 A: 武料の反射光束、B: 基準面の反射光束

【0025】(4)表面粗さ(中心線平均表面粗さsR a、10点平均粗さsRz)

(株) 小坂研究所製の触針式3次元微細形状測定器 (E T-30HK)を用いて、触針先端R:2μm、触針荷 選:10mg、カットオフ:0.25mm、測定長: 0. 5 mm、送りピッチ:5 μm、記録本数:8 0 本の 条件で測定した。

【0026】(5)表面比抵抗

JIS-C-2151に規定される測定条件で、次式に より算出した。

表面比抵抗=(主電極円周長/電極問距離)×抵抗値 [0027] (6) 易接着樹脂層の厚さ

易接着樹脂層を潤層した白色ポリエステルフィルムの厚 さ方向の断面写真を走査電子顕微鏡で観察し、樹脂層の 厚さを測定した。厚さはフィルム幅方向に10点サンプ リングした平均値とした。

[0028]

【実施例】次に実施例に基づさ、本発明の実施態様を説 明する。

実施例1

常法により重合したポリエチレンテレフタレート(重合 触媒:酢酸マグネシウム0.1重量%、三酸化アンチモ ン0.03 食量%、リン化合物としてジメチルフェニル ホスホネート 0. 35 重量%使用)を用い、平均粒径 0. 3μmのアナターゼ型二酸化チタンを7重量%、平 均粒径4.5μmの乾式法凝集シリカ(二酸化珪素)を 0.25重量%、蛍光増白剤を0.01重量%含有する ように調製した原料ペレットを、160℃で7時間真空 **乾燥(5 T o r r)した後、押出機に供給して2 8 0 ℃** で溶融した。次に、口金からシート状に押し出して表面 温度30℃の回転する金属ドラム上にキャストして冷却 **固化し未延伸フィルムとした。次に連続的にこの未延伸** フィルムを85℃で長手方向に3、1倍延伸し、得られ た一軸延伸フィルムの両面にコロナ放電処理を施し、フ ィルム両面に帝電防止易接着性塗剤を塗布した。続いて ステンタを用いて弦剤を乾燥させつつ125℃で幅方向 に3. 4倍延伸し、さらに定長下220℃で10秒間熱 固定を行ない、150℃で樅方向に3%祉緩処理し、厚 さ188μmの白色ボリエステルフィルムを得た。 得ら れたフィルムは、光学濃度1.04、白色度92%、光 沢度65%で、易接着樹脂層の厚さ0.8μm、3次元 表面粗さsRa、sRzはそれぞれ0.21 μm、2. 7 μm、表面比抵抗は1. 3×10¹⁰ Ωであった。

【0029】使用した恩接着性塗剤は水分散性アクリル とスルホン化ポリスチレンを80/20の重量比となる よう調整した強和を使用した。水分散性アクリルは、メ チルメタクリレートとメチルアクリレートの50:50

50 の共**銀**合体で数平均分子量50万、-COOHと-CH

7

2 OH基をおのおの2 で5モル%共取合しだものを使用 した。スルホン化ポリスチレンはスルホン化率98%、 数平均分子量 $15万、スルホン基末端が<math>Li^{\dagger}$ のものを 使用した。

[0030] このブネルムの片面に、ジフェニルメタン ジイソシアネート:アジピン酸:イソフタール酸:1, 4 ブタンジオール:ネオペンチルグリコール=1:1. 9:0,2:3:0.4の比率で混合したバインダー1 00部にァーFe, O, を60部混合したものをメイヤ バー方式のコーターで篁布し、原さ10μmの磁気記録 10 層を積層した。釜工の状態は良好で塗布面および反対面 共にすじや削れ等は生じなかった。

【0031】次に、他方の面にUVインキ(東洋インキ (株) 製のFDB (墨) とFDO (墨)) を2 μm厚に 資布し駅射出力80W/cm、照射距離10cmで30 秒間処理することによって印刷を施した後、カード状に 打ち抜きを行い磁気カードを作成した。

【0032】 実施例2

アナターゼ型二酸化チタンの含有量を5%、平均粒径 有するように原料翻製し、実施例1と同様の二軸延伸製 膜法および易接治層塗布により厚さ188μmの白色ボ リエステルフィルムを得た。 得られたフィルムは、光学 濃度0.96、白色度90%、光沢度71%で、易接着 樹脂層の厚さ0.3μm、3次元表面粗さsRa、sR zはそれぞれ0.22 μ m、3.2 μ m、表面比抵抗は 1. 5×10¹¹ Ωであった。このフィルムに実施例1と 阿様な磁気記録層と印刷層の形成を行なって磁気カード を作成した。全工および印刷共に状態は良好で表面欠点 は生じなかった。

【0033】 実施例3

平均粒径0.5μmの二酸化チタンを7.5重量%、平 均粒径4. 0μmの凝集シリカを0.7重量%、含有す るよう原料調製し、実施例 1 と阿様の二軸延伸製膜法お よび易核着塗剤塗布によって厚さ188μmの白色ポリ エステルフィルムを製膜した。得られたフィルムは、光 学濃度1.13、白色度93%、光沢度52%、易換着 樹脂層の厚さ0.6μm、表面粗さsRa、sRzはそ れぞれ0. 19 μm、2. 9 μm、表面比抵抗2. 5× 10'00であった。使用した易接着銘剤は水分散性アク 40 リルとスルホン化ポリスチレンの貫曼比50:50、ス ルホン化ポリスチレンの末端はLi'のものを用いた。 このフィルムに実施例1と同様な磁気記録層と印刷層の 形成を行なって磁気カードを作成した。 塗工および印刷 共に状態は良好で表面欠点は生じなかった。また作成し た磁気カードをカード読み取り機に通しても帯ではなか った。

[0034] 比較例1

添加粒子としては平均粒径 0. 3 μmのアナターゼ型二 酸化チタンを7重量%のみ含有するよう原料調製し、実 施例1と同様の二軸延伸製膜法および易接着窒剤強布に よって厚さ188μmの白色ボリエスデルフィルムを製 膜した。得られたフィルムは、光学濃度1.13、日色 度93%、光沢度52%、易接着樹脂層の厚さ0.8μ m、3次元表面粗さsRa、sRzはそれぞれ0.21 μm、1. 2 μm、表面比抵抗1. 1×10^{1°} Ωであっ た。このフィルムに実施例1と同様に磁気記録層の塗工 を行ったところ、メイヤバーの部分でフィルム表面が削 れて弦布すじが発生し、さらにコーター内でフィルムと 接触するゴムロール上には、易接着樹脂層の削れ物が付 着した。

【0035】比較例2

平均粒径 0.3 μmのアナターゼ型二酸化チタンを 9 環 量%、平均粒径 4. 5 μmの凝集シリカを 0. 0 1 重量 %含有するよう原料調製し、実施例1と同様の二軸延伸 製膜法および易接着強剤塗布によって厚さ188μmの 1. 5μmの合成炭酸カルシウムを0. 45重量%、含 20 白色ポリエステルフィルムを製膜した。得られたフィル ムは、光学濃度1.05、白色度92%、光沢度52 %、易接着樹脂層の厚さ0、 3μm、3次元表面粗さs Ra、sRzはそれぞれ0、22 μ m、1、7 μ m、表 面比抵抗8×101°Qであった。このフィルムに実施例 1と同様に磁気記録層の塗工を行ったところ、メイヤバ 一の部分でフィルム表面が削れて塗布すじが発生した。 [0036] 比較例3

添加粒子としては平均粒径0.3μmのアナターゼ型二 酸化チタンを1重量%、平均粒径4.5μmの乾式法凝 集シリカを0.1%含有するよう原料調製し、実施例1 30 と同様の二軸延伸製膜法および易接着塗剤塗布によって 厚さ188μmの白色ポリエステルフィルムを製膜し た。得られたフィルムは、光学濃度1.10、白色度9 2%、光沢度49%、易技着樹脂層の厚さ0.05μ m、3次元表面粗さsRa、sRzはそれぞれ0.19 μm、1. 8 μm、表面比抵抗 2. 3×10¹¹ Qであっ た。このフィルムに実施例1と同様に磁気記録層の塗工 を行ったところ、コーター内でフィルムと接触するロー ルと貼り付き気味でロール上には易接着樹脂層の削れ物 が付着した。

[0037]

【発明の効果】本発明によれば、白色無機粒子の含有量 が少なく易接着樹脂層が厚く穂層された白色ポリエステ ルフィルムにおいて、白色性、隠蔽性、光沢性、帯電防 止性に優れ、美麗な印刷ができ、表面欠点や塗布層削れ などが発生しにくく取扱い性に優れた白色ポリエステル フィルムを提供することができる。

フロントページの続き

(51) Int. Cl.* C 0 8 J C 0 8 L	7/04 3/20 ⁻³ 67/02	識別記号 CFD	o t	C08L C08L	3/20	CFDD
// B29K B29L	67:00			0000	01/02	

14